

試験研究成果普及情報

部門	酪農・肉牛	対象	普及
課題名：県有種雄牛の野外後代検定成績（R I・M）			
[要約]			
・R I号は乳脂率、SNF率の改良が期待できる。大きさは中型で、前駆、中軀は中等度。尻は座骨が低く、幅は広い。蹄の角度は小さい。乳房のけん垂は強く、乳房の深さは高い。			
・M号は乳量、乳脂量の改良が期待できる。大きさは大型で、前駆、中軀は中等度。尻は座骨が高く、幅は広い。後肢側望、蹄の角度は良好。乳房のけん垂は弱く、乳頭の配置は内付が見られる。			
キーワード（専門区分）育種（研究対象）家畜類－乳用牛			
（フリーキーワード）県有種雄牛 後代検定 R I M			
実施機関名（主査） 嶺岡乳牛試験場 乳牛研究室			
（協力機関） 県酪連，農業共済連，牛群検定組合，安房農協			
（実施期間） 1994年度～1999年度			

[目的及び背景]

当場は県内の牛群改良の資となすべく、県有種雄牛を繋養し、その凍結精液を県内各地に配布している。県内のみの流通のため、種雄牛の能力評価は、独自の評価を行う必要がある。今回、ホワイトパーチ インスピレーション ロキシー号（R I）、マイケル エレベーション グレース ET(M)の能力評価をするため、県内牛群検定農家で飼養されている初産分娩娘牛について乳量検定、体型調査を実施した。

[普及に移す成果内容]

泌乳能力成績の算出は、本県における乳用牛群検定普及定着化事業成績のうち、同期初産牛群の検定成績を分娩季節補正処理し、サイアモデルBLUP法により実施した。体型調査は、現地にて線型審査により実施した。

1. 娘牛の泌乳成績（平成9～10年）

〔R I〕 乳脂率、SNF率の改良が期待できる。〔M〕 乳量、乳脂量の改良が期待できる。

2. 娘牛の体型的特徴

〔R I〕 大きさは中型で、前駆、中軀は中等度。尻は座骨が低く、幅は広い。蹄の角度は小さい。

乳房のけん垂は強く、乳房の深さは高い。

〔M〕 大きさは大型で、前駆、中軀は中等度。尻は座骨が高く、幅は広い。後肢側望、蹄の角度は良好。

乳房のけん垂は弱く、乳頭の配置は内付が見られる。

[留意事項]

後代検定の進歩により特定種雄牛とその息牛、孫息牛による近親交配が問題になることが多くなっているため、近交係数をできるだけ5%以内にとどめる。

[R I]

ハノーバーヒル インセレーション	363162C	エスタブリッシュ ハリアント	16
		エー トーラ トリアル スロット ルル	39
ホワイトハーチ ロマン フタゴ	4767412	ケブリンミラー ラグ アップ エレベーション	46
		エムミルアルモ サイタマツト ローゼンダ	40

[M]

エリクテュー クワイエットコブ° マイケル	1935264A	カーリンEM アイバンホー ベル	16
		エリクテュー マース マーシ	10
EMオー エレベーション ヘス	4341619	タイロ タイテイ エレベーション フタゴ	46
		EMオー グレース ヘス モナーク	39

[普及対象地域]

県下全域、県内酪農家

[成果の概要]

1. 娘牛の泌乳成績 (平成9~10年)

種雄牛 (略号)		乳量	乳脂量	乳脂率	SNF量	SI
ホワイトハーチ インセレーション ロキシー号 (R I)	n= 13	7,067kg	283kg	4.01%	632kg	
マイケル エレベーション グレース ET 号 (M)	n= 7	8,008kg	297kg	3.70%	699kg	
同期牛群	n=920	7,979kg	313kg	3.94%	700kg	

牛群の泌乳能力は常に変動しているが、同期牛群の基準をもとに最新の予想差をもって第一指標となる。以下に同期初産牛群の基準値と検定種雌牛の予想差 (PD値) と改良点を示す。

	乳量(R)	乳脂率(R)	SNF率(R)	備考	
基準値	7,979kg	3.94%	8.79%	初産牛 920頭	
予想差	R I	-198kg(65%)	+0.07%(69%)	+0.07%(68%)	改良点:乳脂率, SNF率
	M	+31kg(52%)	-0.08%(57%)	0.00%(55%)	改良点:乳量

* 表中(R)・・・反復率%

2. 娘牛の体的特徴

[R I]娘牛の体的特徴

[M]娘牛の体的特徴

[発表及び関連文献]

千葉県嶺岡乳牛試験場年報